

建築トークイン上越 2011

参加のしおり

事前配布用

建築トークイン上越 2011 のお知らせ

■開催日時

2011年8月19日(金)ー21日(日)

■開催場所

トークイン会場：上越市浦川原区公民館

懇親会・宿泊：月影の郷

■参加費用（／1人）

学生参加費：

一般参加費：

※参加費の詳細は、後日またご連絡いたします。(上記の値段はまだ確定しておりません)

■テーマ

『都市と田舎 ―ゲームのルールを変えてみよう―』

20世紀の都市は田舎を収奪して成立していたということが、今回の3.11で良くわかりました。フクシマがなぜ東京から220km離れたところにあるのか。野菜はどこから来ていたのか良くわかります。家族という視点からも、田舎は都市に収奪されてきたといえます。かつては、都市に労働力を提供し、あるいは都市にでていった兄弟姉妹を田舎の家族がささえた時代もありました。20世紀に開発され支配した社会システムは都市を優位にするシステムであったから、地方が減衰するのはしようがないように思えます。ゲームのルールを変えて田舎が優位である社会システムを構想することはできないでしょうか。または都市と田舎が対等である社会システムは構想できないでしょうか。そこに未来の希望があるように思えるのです。

■課題文

基調講演をしていただく北山恒先生と篠原聡子先生のお二方から、ディスカッションにむけての課題文を頂きました。

■現地見学

20日(土) 9:00ー12:00

2つのコースに分かれ、マイクロバスをつかって移動します。(一部自動車利用)

- ・group A むらコース → やまコース
- ・group B やまコース → むらコース

建築トークイン上越 2011

スケジュール

8月19日（金）

19:00	月影の郷に到着	受付：参加費回収後、ネームカードなどを配布いたします。
19:30	顔合わせ	自己紹介を行います。各大学の活動内容を発表し合います。
21:00	解散、入浴	各自就寝

8月20日（土）

8:00	起床&朝食	月影の郷で朝食を食べます。
8:30	てい山荘へ移動	マイクロバスと自動車移動します。
9:00	てい山荘到着	先生達と合流し、高橋てい先生設計のてい山荘を見学します。
10:00	現地見学へ移動	
12:00	公民館到着&昼食	こちらでお弁当を用意いたします。
13:00	基調講演 テーマ：『都市と田舎 ―ゲームのルールを変えてみよう―』 講演者：北山恒（横浜国立大学 Y-GSA 教授） 篠原聡子（日本女子大学 教授）	
14:30	ディスカッション①開始	学生と先生が6つのグループに分かれて議論を行い、いくつかのテーマを見つけていきます。
18:00	月影の郷に移動	
18:30	懇親会	先生方おすすめのお酒と、地元の食材をつかった料理や企画を準備中。
21:00	解散、入浴	

8月21日（日）

8:00	起床&朝食	月影の郷で朝食を食べます。
8:30	荷造り	
9:00	月影の郷から撤収&公民館に移動	
9:30		3人（川口先生、トムヘネガン先生、坂牛先生）による20分程度（合計1時間）の実際の仕事の中での「都市と田舎」に対する考えをレクチャーしていただき、その後シンポジウム形式で、全体ディスカッションをする。
11:00	ディスカッション②-1 開始	1日目に出たテーマごとにグループを分けて、さらにそのテーマごとに議論を深めていく。
12:00	昼食	こちらでお弁当を用意いたします。
13:00	ディスカッション②-2 開始	1日目に出たテーマごとにグループを分けて、さらにそのトピックごとの解決策などの答えを出す。
14:30	ディスカッションまとめ	議論の方向性をグループごとに整理していく。
15:00	発表	スタッフ以外のメンバーがそのグループの話した内容や、方向性を発表する。
15:30	解散	



「アーバニズム」、すなわち「都市計画」とは、遅くとも西洋ではギリシア・ローマに、東洋では長安の都にあったと思われがちだが、その概念は実はイルデフونس・セルダ（バルセロナの都市計画者）の著した『都市化の一般理論』（1867）に初めて登場する。それまでは、美しい造形として都市をつくるのは建築家の仕事であり、都市の防備を固めるのは軍事技師の仕事だった。これに対して、セルダは市民社会の諸問題に対処するために都市を計画しようとした最初の都市計画家だった。『都市化の一般理論』の表紙には「都市を田舎化し、田舎を都市化せよ」と書かれている。（岡部明子「バルセロナ」）

20世紀に入るまで、ヨーロッパでは、エベネザー・ハワードの『明日の田園都市』（1902）で示されるように都市と田舎の共存が図られていた。しかし第一次世界大戦後の急激な都市人口の増加と自動車の普及によって、都市の目指すべきビジョンは大きく変更される。そこでは、大量の都市労働者を収容し、効率よく経済活動の行える都市が構想される。人々は都市近郊の専用住宅地に住み、都市中心部にある業務地区との往復運動を行うというライフスタイルがあたりまえとなるのである。ル・コルビュジェの『ユルバニスム』（1925）にその工程が克明に記述され、アテネ憲章（1933）によって都市の姿が決定される。20世紀は資本主義による都市化の時代であった。生産と消費の場として都市に優位性が与えられ、その対称として田舎は減衰した。

ローマクラブの『成長の限界』（1972）で、この20世紀パラダイムの有限性が示されていたのだが、それをリアルなものとして認識するようになったのは近年である。セルダの「都市を田舎化し、田舎を都市化せよ」というマニフェストを再考してみよう。人類の歴史の中で20世紀という時代だけが特異な社会をつくっていたのかもしれない。新しい社会はこの20世紀の時代を切断するものとして姿を現すのかも知れない。『ユルバニスム』の終章に書かれている「われわれは、革命をすることによって革命をするのではなく、解決することによって革命をするのだ」とするコルビュジェと同じ精神で未来を描いてみたい。

参考図書



『ユルバニスム』
ル・コルビュジェ



『コミュニティを問いなおす』
広井良典

Shinohara Satoko
篠原 聡子



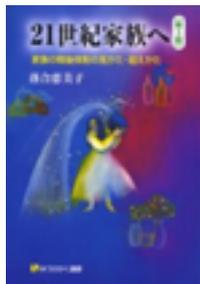
人は日常を支える多様なネットワークの中で生きている。家族もそのひとつだが、小さくなった家族は人の一生を支えるにはもはや不完全なものである。今回の大地震でも、目の当りにしたように、それを補い支えるコミュニティのあり方が今、問われている。田舎と都市の問題をこのコミュニティの視点から考えてみるどんな課題が見えてくるだろうか。

戦後日本では、田舎の労働力が都市へと移動することで産業の構造が大きく変わり、高度経済成長を成し遂げたが、家族社会学の落合恵美子が言うように、都市の個人や小さな家族は、田舎の大きな家族やコミュニティによって支えられていたという側面を忘れるわけにはいかない。しかし、人口の移動や産業構造の変化によって、田舎の家族もコミュニティも弱体化し、かつてのような機能を期待することはもはやできない。田舎は都市に搾取されたとも言える。

一方で、ジェーン・ジェコブスは、その著作「都市の原理」の中で、「田舎は都市によってつくられる」と言っている。実際、田舎の農産物や工芸品は、都市での消費を前提とし、都市の大企業によって生産された機械によって農業は成り立っている。実のところ、今でさえ、田舎と都市は緊密な関係の上に相互依存しているのである。しかし、コミュニティや人のネットワークという視点でみたとき、その関係は非常に見えにくい。人によって移動していたモノや情報が、人の移動、モノの流通、情報の伝達がそれぞれ分断されることによって、それらを介してつながっていたコミュニティは孤立しつつある。とくに田舎は都市のバックヤードのようで、都市生活者しばしば田舎の存在を忘れていて。福島原発によって、東京の電力が賄われていたことを失念していたように。

地域共同体のような場所に帰属するコミュニティには、閉鎖的で排他的なイメージがつきまとうが、実は外部があつてのコミュニティであり、外部との連携の中でこそ持続が可能なのである。そんな視点から、田舎と都市の新しい双方向な関係をリ・デザインできないかを考えてみたい。

参考図書



『21世紀家族へ』
落合恵美子



『都市の原理』
ジェーン・ジェコブス

建築トークイン上越 2011

トークイン会場：上越市浦川原地区公民館

基調講演や、2日間のディスカッションを行う会場です。宿泊施設との移動は用意したバスで行います。(21日のみバス移動です。22日は自動車でご移動ください。)

※自動車をご利用されない参加者の方は、トークインスタッフが会場までご案内いたしますので、事前にお申し付け下さい

〒 942-0307

新潟県上越市浦川原地区釜淵 5 番地

(ほくほく線うらがわら駅より十日町方面へ徒歩 10 分)

TEL:025-599-0307



宿泊会場：月影の郷

2001年に閉校した浦川原区月影小学校を宿泊施設にリノベーションしたものです。建築本体の改修から展示室に至るまで10年間、法政大学、早稲田大学、日本女子大学、横浜国立大学の学生が関わってきました。建築トークインではこの月影の郷に宿泊し、交流の場となります。

〒 942-0302

新潟県上越市浦川原区横住 410

TEL:025-599-3302



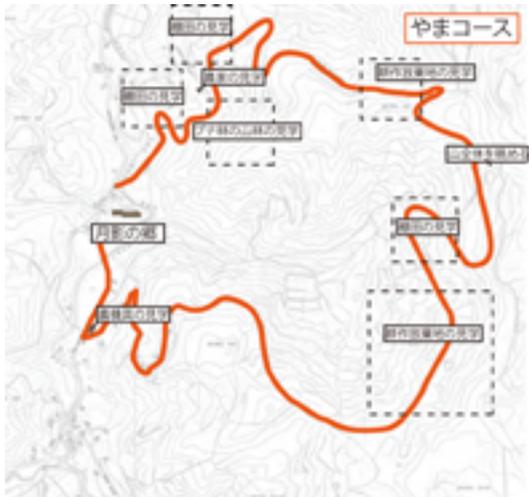
迷ってしまったら…

会場まで迷ってしまった場合、下記のスタッフまでご連絡下さい。

案内担当：三上恵理華

連絡先：080-5612-6030

■やまコース



うらがわらの山間部を廻る

見学ポイント…耕作放棄地の現状、棚田の貴重な風景、農家の生活の現状

■むらコース



うらがわらの中心地を廻る

見学ポイント…ショッピングセンターと商店街の衰退、駅前の宅地開発、小学校や介護施設などの公共施設の在り方

■見学スケジュール

time	group A	group B
8:30	浦川原出発	
9:00	てい山荘見学	
9:45		
10:00	むらコース見学	やまコース見学
11:00		
11:15	やまコース見学	むらコース見学
12:00		
12:15	浦川原地区公民館到着	

平成 23 年度 8 月 20 日 (土)

